

科目責任者 橋本 のぞみ

■教育目的

本講義(一部演習を含む)では、大学及び社会で必要とされる様々な文章形式を習得するとともに、実践を通じ、豊かな表現力を養うことを目的とする。

高度情報化社会といわれる現代、自分の意志を的確に伝達するためには、文章表現のルールを正しく知る必要がある。そこで前半では、日本語の特色や基礎的な表現技法を扱い、後半においては、実作や分析を交えつつ、種々の文章の表現について学習する。

■学習到達目標

1. 文章表現に関する基本的な知識を身につけ、自分の考えを伝達する力を育成する。
2. 教材の読解や実作を通じ、論理的な思考能力の向上を目指す。
3. 文章を組み立て、推敲する楽しさを学ぶ。

■準備学習(予習・復習)

予習：教科書の該当箇所を目を通すとともに、扱う小論文のテーマや文学作品の関連事項について、簡単に調べておく。

復習：教科書やプリント等を参照しつつ、自分の書いた文章を幾度も読み直し、推敲を心掛ける。

■授業形態

双方向型授業、講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1～5	表現技法の基礎	・ ガイダンス、文章を書いてみる ・ 原稿用紙の使い方、各記号の用法 ・ 文章の構成、引用の仕方 ・ 敬語の基礎知識(1) ・ 敬語の基礎知識(2)	
6～9	表現の形式 1	・ 小論文を書く(1) ・ 小論文についての解説(1) ・ 小論文を書く(2) ・ 小論文についての解説(2)	
10～13	表現の形式 2	・ 手紙文を書く(1) ・ 手紙文についての解説(1) ・ 手紙文を書く(2) ・ 手紙文についての解説(2)	
14～15	表現の分析	・ 文学作品の表現—分析 ・ 文学作品の表現—解説	

■授業分担者

橋本 のぞみ(No.1～15)

■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

【フィードバック】講義等に関する質問を受け付け、解説する。

【成績評価方法】出席状況(30%)、授業時の提出物(30%)、レポート(40%)で総合評価する。

■教科書

庄司達也 他『日本語表現法—21世紀を生きる社会人のたしなみ—』(翰林書房、2007年4月)

必要に応じてプリントを配布する。

■その他

受講者は50人以内とする。